

011551 B7KC

IOC 問題プロジェクト報告書

平成 11 年 8 月 24 日
IOC 問題プロジェクト

41141 81243

41141 81243

2. 「IOC問題プロジェクト」の開催
 第1回 2月3日(水) 理事監事室
 出席者: 八木、上田、蓮塚、川廷、小粥、竹田、岡崎
 議題: 1. プロジェクト発足の趣旨及びこれまでの経過説明
 2. 招致委員会作成の最終報告書の検討

臨時 2月11日(木) 東京農芸会議室
 出席者: 八木、上田、蓮塚、小粥、竹田、岡崎
 議題: 1. IOC委員への不適切な対応について
 2. 招致委員会関係者からの事実確認内容の検討

第2回 2月12日(金) 理事監事室
 出席者: 八木、上田、蓮塚、小粥、竹田、岡崎
 議題: 1. IOCへの回答案について

第3回 3月5日(金) 理事監事室
 出席者: 八木、上田、蓮塚、川廷、小粥、竹田、岡崎
 議題: 1. 今後の事実確認方針について

第4回 3月23日(火) 特別会議室
 出席者: 八木、上田、蓮塚、川廷、小粥、竹田、岡崎
 議題: 1. IOC問題プロジェクト報告書の作成について

1. 「IOC問題プロジェクト」の発足
 ・プロジェクト発足の経緯

12月末、IOCにおいてソルトレイクシティ招致問題が発生した時点でプロジェクトの立案を開始した。
 1月に入り、問題が拡大し、1990年に決まったアトランタオリンピック招致活動以降の各立候補国NOCに対し、IOCが調査依頼することを決定した時点でプロジェクト委員の人選を行う。

1月24、25日にローザンズにおいてIOC緊急理事会が開かれた。を受けて、JOCは1月25日にこのプロジェクトチームを発足させた。
 (2月24日 第9回理事会にて事後承認)

- プロジェクト委員
- 座長 八木 祐四郎 専務理事
 - 委員 上田 宗良 総務委員長
 - ” 蓮塚 研一 財務専門委員長
 - ” 川廷 榮一 国際専門委員長
 - ” 小粥 義朗 技術専門委員長
 - ” 竹田 恒和 事業・広報専門委員長
 - ” 岡崎 助一 官公庁担当

4. IOCへの報告
報告書を作成するにあたっての条件として
- ① 対象とする期間はIOCへの正式立候補申請(1990年2月)時から招致委員会解散(1991年10月)までとする。
 - ② この期間にIOC委員の立場で来日・来賓した本人及び家族等、また招致委員会等が同期間内に海外で対応したIOC委員を対象とする。
 - ③ IOCガイドラインを参考に検討する。(IOCガイドライン提示以前についても同様趣旨で取り扱う)
- の3点を検討基準として設定。

その結果

- ① IOC委員に対して金銭を渡したという事実は把握できなかった。
- ② IOC委員もしくは家族等への医薬費等の利益供与を行った事実は把握できなかった。
- ③ 本人もしくは家族等の長野訪問について、ガイドラインに抵触するものについては
 - ・ 複数回の訪問者が1名
 - ・ 3人以上の多人数での訪問者が4名
 - ・ 本人の家族や友人のみでの訪問が4名の合計9名について資料・説明等から確認できた。
- ④ 明らかに慣習の域を越える贈答品を受けたIOC委員の事実は把握できなかった。しかし、白鳥画伯の好意による日本画、地元の刀匠の好意による短刀をIOCに送ったという説明を得た。
- ⑤ エージェントの「スタジボ6」については、IOC、IF、他の立候補都市に送る情報収集及び分析並びに、プレゼンテーションやPR活動の支援の目的で1990年8月に契約したという説明を受けた。なお、報酬は30万スイスフラン、長野が開権都市として決定した場合の追加分として15万スイスフランの計45万スイスフランであったことを確認。
- ⑥ 関係書類の廃棄処分に関しては、現段階において証書等から国内法に照らして問題はないという決着をみているものの、IOCとしては、書類の廃棄処分によって確固たる証拠を得られなかったこととなり誠に遺憾と思っている。

以上の点についてJOC内の手続きを経て、IOCへ2月15日 FAXにて報告し、受信確認を得た。

3. 長野招致関係者等からの事実確認
- 2月6日(土)17:30～ / 慶北館
17:30～ / IOCパースンネコミット副会長
18:00～18:30 / 吉村知事、塚田市長
同日 20:00～22:00 / ホテル国際21
20:00～21:00 / 市村勲元事務総長
21:00～22:00 / 吉田和民事務局長
- 2月7日(日)08:35～11:25 / ホテル国際21
08:35～09:35 / 吉田総一郎元事務総長代理
09:35～10:30 / 山口純一元事務次長
10:40～10:50 / 増田修二元総務部長
10:50～11:25 / 稲玉三雄元総務課長
- 3月9日(火)11:00～13:30 / 東京美装興業(株)
吉田総一郎元事務総長代理
15:00～15:30 / JOC役員室
加藤大豊元監事
- 3月11日(木) / ホテル国際21
09:00～10:00 牧野内 生鶴元広報渉外課長
10:00～ 長野地方検察庁
検察官 榎野 義正
10:30～11:20 鷹沢 正一元オリンピックビジネスクラブ会長
市村 次夫元オリンピックビジネスクラブ会長
11:20～11:50 湯原 正敏元国際渉外課係長
12:00～12:30 長谷川 裕元広報渉外課主査
12:50～ 白鳥 映雪 画伯
13:45～14:35 市村 勲元事務総長
- 3月12日(金)
10:00～10:20 上林温泉「仙崎閣」関支配人
13:20～14:00 上山田温泉「笹屋」坂本支配人

猪谷理事、菊地理事
・八木事務理事、及び上田総務委員長が菊地理事に2月12日11:50から12:50まで、JOC役員室、また、猪谷理事に対して2月19日18:00から18:50まで、AIG役員室で会い、ガイドラインに反するような行為が無かったことを確認。

IOC委員の複数回の訪問、8人以上の多人数での訪問、本人の家族や友人のみでの訪問はIOCガイドラインに照らして不適切なものであり、また、本部方面への案内など招致目的と直接関係があるとは考えられない訪問に知する接遇を行っているが、これまでの対応が必要であったかどうかについては疑問が残る。

② パーミンガムのハイベリーハウスにおけるIOC委員の接遇
同ハウス(総会組織委員会の幹事による)における接遇は1991年6月のパーミンガムIOC総会におけるオリンピック開催都市決定直前という時期であり、他の立候補都市も行ったという状況下にあったといことは理解できているが、相当の経費をぎぎ込んでいたという状況下であったこと、IOCのガイドラインに必ずしもそつたものでなかったこと等に鑑み、そこまでの対応の必要性があったかどうかについては疑問が残る。

③ 東京のゲストハウスにおけるIOC委員の接遇
1990年9月のIOC東京総会時に長野招致を働きかける目的でゲストハウス(三菱関東)の借上げによるIOC委員招待のパーティー開催は、一般的なものとして他の立候補都市も行っていたという状況があるものの、招致活動の過熱化に注目をかける一因ともなっており、そこまでの対応の必要性があったかどうかについては疑問が残る。

(3) 慣習の域を越える高額な贈り物
長野の地元の間伯並びに刀匠からIOCに対し、日本画並びに短刀が招致委員会を介して贈答されているが、これは、長野招致を願う彼らの好意によるものであることが確認できた。しかし、今回の報道により、両氏に多大の迷惑をかける結果となったことを踏まえ、招致委員会事務局をはじめとする長野関係者はガイドラインを十分考慮した判断と行動が求められたと言える。

(4) エージェント「スタジオ6」の契約
招致委員会は長野招致を有効に進めるため、IOCや他の立候補都市の情報収集及び分析並びにプレゼンテーションやPR活動の支援を目的として「スタジオ6」と45万スイスフランで1990年8月に契約している。この契約については、契約金が高額であること、しかも45万スイスフランのうち15万スイスフランは長野が開催都市に決定した場合の追加分であったことなどから集積運動も含まれていたのではないかと、この疑念が指摘された。また、一部の招致委員会幹部からは、長野招致に關して必ずしも有効であったとは言えないという指摘もあった。これらを踏まえ「スタジオ6」との契約は長野招致をめぐって必要不可欠であったかどうかについては疑問が残る。

5. 長野招致活動の総合的評価

今般のIOC問題プロジェクトによる関係者からの一連の事実確認を通じての申論は、当時のIOCにおけるオリンピック開催都市決定方式の中で、「長野へのオリンピック招致」という目的に向かって、招致委員会、国内スポーツ関係者はもちろん、オリンピックアレンスグループをはじめとする各種ボランティアの献身的な活動など長野市民・県民をあげての一大招致活動であったということである。

今回の関係者からの事実確認は、会計帳簿の廃棄処分など細部にわたる疑念が存在しない中で行われたが、関係者からの説明や長野側から提出された資料等によるとIOC委員に対しての金銭の贈与や閉らかに慣習の域を越える贈答品の提供、IOC委員もしくは家族等への医療費、奨学金等の便宜供与などを行なった事実が確認された。しかし、招致委員会解散時における会計帳簿等関係書類の廃棄処分、IOCガイドラインに照らして不適切なIOC委員もしくは家族等への未日・米長への対応やレセプションの開催による接遇等、一部には必要以上の対応が行われていたという事実が明らかになった。

以下に今回の事実確認で明らかになった問題点を指摘・評価し、今後のオリンピックをはじめとする国際競技大会招致に關する課題として位置づけることとする。

(1) 会計帳簿等関係書類の廃棄処分
招致委員会解散時の決算については、監事の監査を受け、総会の承認を得るなど適正な手続きによって処理されているものの会計帳簿等関係書類の廃棄処分については、招致委員会総会には諮っておらず、招致委員会事務局幹部の合議により行われた。この件については、市民グループから司法当局に対して苦情がなされたが、1995年3月28日に長野地方検察庁は不起訴処分の決定を下している。また、その後、一連の裁判が行われ、1998年6月12日の最高裁判所判決として上告棄却となり、我が国国内法上は決着をみている。しかし、この行為は長野招致に向けて多くの関係者が献身的に協力・支援をしてくれている実態を考慮すれば、決して好ましいとは言えず、当時の招致委員会事務局関係者、とりわけ幹部職員に対し反省を求めるとともに、JOC自らの指導不足を反省し、今後の国際競技大会招致の際の留意事項として対処していく必要がある。

(2) IOC委員に対する接遇
長野招致をめぐり国内外におけるIOC委員への対応は、長野の理解を高めるため関係者が大きなエネルギーを費やしている。一連の招致活動は概ね妥当に行われているもののガイドラインに照らしてIOCに報告した事項も含め、次の点については反省すべき事項として指摘できる。

① IOC委員もしくは家族等の長野訪問時の接遇

6. 今後の国際総合競技会招致に関する提言
 長野オリンピックは国民に大きな感動を与え、少年達に夢と希望を抱かせるなど大きな成果をあげた。今回の IOC 委員に関する問題は、オリンピックの素晴らしさイメージに傷をつけることとなり、オリンピックムーブメントの推進にとって、まことに遺憾なことである。

今回の JOC 調査結果の IOC への報告事項については、今回の IOC 臨時理事会及び臨時総会において討議されることはなかった。しかし、一部に不適切な対応があったことは認めなければならず、国内で指導的立場にある JOC として大いに反省をし、今後のオリンピックをはじめとする国際総合競技大会招致への対応並びに IOC に対し、以下のような提言をする。

① 今後のオリンピックをはじめとする国際総合競技大会招致への対応
 十分な連携や指導を行っていかねばならないことを反省し、今後のオリンピックをはじめとする国際総合競技大会招致にあたっては招致計画の立案から具体的な招致活動の実施に至るまでの段階で今回の経験を十分反映させ、立候補都市と密接な共同作業を行っていくとともに、IOC のマニュアル等を模範しつつ、招致委員会が IOC 委員、IF 役員等への披露や接触を公正かつ円滑に進めていくよう指導する。

② JOC としては今後のオリンピックをはじめとする国際総合競技大会の招致に関して透明性を確保するため、立候補都市に対し、情報公開、招致活動に対する第 3 者による監視システムの整備をうながしていく。

(2) IOC への要望

JOC は 2008 年オリンピックに大阪が立候補することを承認しており、また、政府も招致に関する開離了解を行っている。
 去る 2 月 8 日には、招致委員会を設立し、フェアでクリーンな招致活動の推進を世界に宣言している。したがって、21 世紀におけるオリンピックムーブメント発展のためにも、IOC において自己改革を一層推進するとともに、2006 年のオリンピック開催都市の選定方法についてはすでに決定をみているが、その後の開催都市決定について次の点を考慮しつつ公平正大な方法がとられるよう要望する。

- (1) 開催都市決定の評価に関わる IOC 委員が立候補都市を訪れる事は
 正当な判断をする上で必要である。
- (2) それに関わる経費は IOC が負担するなど検討することが望ましい。
- (3) 今後、二度と今回のような不祥事をおこさないよう IOC 自体に自己監視機能を持つことを期待したい。

招致活動動カ疑惑に係る調査機関について

都市名	長 野	ソルトレーク	シドニー
調査機関	1 JOC	1 倫理調査委員会 (元州最高裁判事 外部スタッフ75名)	1 特別調査機関 (元州会計監査官、弁護士)
	2 県及び市	2 FBI	2 オリンピック組織委員会
	3 招致委員会幹部	3 内国歳入庁	
		4 連邦議会会計検査院	
		5 ユタ州同法当局	
		6 アメリカオリンピック委員会	
		7 オリンピック組織委員会	
疑惑事項	・ IOC委員に対する接待、贈賄	・ IOC委員に対する贈収賄罪 ・ 外為法 ・ 脱税	・ IOC委員に対する接待、贈賄
調査内容	・ 関係者聴取 2/6、7 数時間 ・ 調査資料 なし (処分済) ・ 報告書 数ページ	・ 関係者聴取 数百時間 ・ 調査資料 50,000ページ ・ 報告書 300ページ	・ 関係者聴取 (実施中) ・ 調査資料 3,000 項目 ・ 報告書 調査中

5/10
手取り用

長野を訪れたIOC委員及び関係者の処分内容等

1 複数回訪れたIOC委員

番号	IOC委員氏名	出身国	年月日	人数	視察内容	他の目的	IOCによる処分内
1	フェルナンド・フェレイラ・リマ・ヘロ委員	ポルトガル	H2.9.13	1	オリンピックセンター	東京総会	
			H3.4.27	2	競技会場		

2 多人数で訪れたIOC委員

番号	IOC委員氏名	出身国	年月日	人数	視察内容	同伴者	IOCによる処分内
1	ジョアン・アペランジェ委員	ブラジル	H2.9.12	4	オリンピックセンター、 競技会場	夫人、娘、秘書(東京総会)	新たな疑惑
2	シルビオ・デ・マカリファエス・パティ リャ委員(名誉委員)	ブラジル	H2.9.13	3	オリンピックセンター、 競技会場	娘、子息(東京総会) (委員車イス介助必要)	新たな疑惑
3	モハメド・ベンジェルン委員	モロッコ	H3.4.19	3	競技会場・ 城山小学校	夫人、子息(夫人介助必要)	(本人死亡)
4	金 愈順(ユン・スン・キム)委員	朝鮮民主主義 人民共和国	H3.6.5	4	競技会場	NOC 3(ハ・ミンガム総会出席 途中で訪問)	(本人死亡)

3 IOC委員の親族訪問

番号	IOC委員及び関係者氏名	出身国	年月日	人数	視察内容	他の目的	IOCによる処分内
1	ラレス・バスケス委員子息夫妻 (名誉委員)	メキシコ	H2.2.16	2	市内視察	フリースタイルワールドカップ	新たな疑惑
2	ロバート・ヘルミック理事子息夫妻	アメリカ	H2.5.29	2	オリンピックセンター		(本人辞任済み)
3	カルロス・アロバ委員夫人・友人	エクアドル	H2.9.13	2	オリンピックセンター	東京総会	追放処分
4	モハメド・セルキニ委員子息夫妻	アルジェリア	H3.3.18	2		医療施設視察	厳重な警告

3/28
鳥田隆行

I.O.C東京総会対応費	
項目	説明
(単位千円)	
金額	
東京での活動費	
・ I.O.C委員等への土産	25,000
	(ポストバツ 初9日 20-7 浴衣等)
・ I.O.C委員の部屋盛花	100円 × 20,000円
・ ハイヤー-備上げ	4日 × 10台 × 60,000 10日 × 20台 × 60,000
・ 長野レーム用設費	10日 × 60,000円 × 6室
・ ボスス 日当	2,800
・ 接待用レーム	16室 × 12日 × 25,000円 2室 × 12日 × 100,000円等
・ 同上レームでの接待費	8,000
・ その他接待費	10,000
・ 土産用包装紙・キツ袋	2,000
・ 職費滞在費	12日 × 50人 × 10,000
・ 通費	1,000
・ I.O.C委員活動費	10人 × 50,000
・ その他	4,200
	95,000

項目	説明	金額
長野への招待費		
・ I.O.C委員夫人航空賃	30人 × 1,200,000円	36,000
・ " 東京滞在費	30.5日 × 100,000円 × 1日	3,000
・ " 長野~長野交通費	60人 × 20,000	1,200
・ " 長野滞在費	30.5日 × 60,000円 × 1日	2,700
・ " 接待費(昼・夕)	30.5日 × 300,000円	9,000
・ " 土産	30.5日 × 50,000円	1,500
・ へリコプター-備上げ	2台 × 400,000円 × 3日	4,800
・ その他 (京都等への旅行等)		2,800
	計	61,000

項目	説明	金額
広報関係		
・雑誌	「TIME」広告	2,500
・アドバタイジング	リーフ (1,000部)	7,000
・ビデオ		9,000
・アルバム	(100名 x 30,000円)	3,000
・ポスター		3,400
・マスコット		13,000
・マネージル		3,000
・三載レポート展示		5,000
・その他		2,100
	計	48,000
10.C.総会組織委員会負担金		
		30,000
	計	30,000
合	計	222,400
		(増80,000)

園遊子 総務主任 御指授

日時 63年8月16日 午後5時~6時20分

場所 東京都目黒区 庭園ホテル

同席 山口純一 電通松岡氏

大要

- 1 リースレットの件
- ◎ ソウルオリンピックを記念して
 - 一面は 柴田喜貞氏 吉石知寿 塚田直哉 3人のメッセージ
 - 7か国語 (英仏独露ソビエトアフリカハンガール) が入った
 - 内容として 写真1:53 長野の紹介 2:42 2:47-47と 元氣な子供たちの情景の紹介

v 24e News Letter No. 1 と
あり

又

。用意して持参した資料を了承
 ・ 柴田喜貞氏のメッセージの長ければ書き道すことも可能
 …… (17日午後6時 高橋洋長氏に依頼す)

◎ 前に紹介のあったリースレットについて
 …… 長野で利用可能な分にはかまわない。
 …… 内容、方針に依りては含む。

(以上電通松岡氏同席)

2 ソウル対策について
 ◎ 丁がノードに設置ポイント
 ・ 長野を紹介する資料を置く
 バネル
 ・ 長野の自然 工場 生活
 ・ 子供の計画
 リースレット
 観光リースレット

4

〔余話〕 イダヤ夫人 親子さんは
 ハンガリー大蔵に在学中から、TEI OC
 アルハイザヤナに一を通じて知り合っ
 た。共益園に強く利用をま
 面もあつた。個人には交際して
 つかひあり 虫しやけりすぞ。

◎ 東京招待の件
 龍水を招くか } 猪谷氏
 長崎を招くか } 龍水

具体的な案がなければ不可
 能ではなからぬ。

一 証書を出して
 長崎 JOC を呼びこ
 びたいことは明確にして
 30日にははっきりの答を
 出さむ。

◎ 猪谷の提案については JOC
 内で検討せむ。

3

News Letter No. 1.

2 茶、酒程度のサービスに
 加用意をす。
 ・ピエニ華内をすすむか
 ・IOC IF NOC 平等に
 ・Implementation letter の出さ範囲
 を広げしむる可也

・開演 16日以降の直り

〔余話〕 9月11日～14日 18,000 回演説
 ANOC の事務総長 マリアンケル
 (ポランド スペイン大使 前ボラーニ
 プリンピック委員会委員長)
 新宿 エルトンホテルに滞在
 機会があるから 長崎の関係者との
 パーティーをセトリて置む。

◎ ソウル対策については 或る程度
 猪谷氏の提案を 受け入れる
 を得た。

一 金の問題については
 ・イダヤノ一の代金口自前が割前
 ・お土産などは 潤澤に

5

◎ 通絡会の運営について

。私達が多く出て来たことと、難いこと
が去てくれば、産長のほうに
責任者をおくことにする

岡野が立場上産長と話し

藤原が鬼崎 長野から

は、総長の副知事を兼任する

。ソウル後の計画の中で、エー

ントでどの国の電通の入

社さんでメンバーに入社話もあ

る。基本では、まだ未決で

うにしたい。

他や氏は博報堂に肩入れして

降し、晶子さんの関係で

。将軍的には、文部省、外務

省、日本体育協会、日本マ

スターに入社会を打つことに

する。

。IOC IF NOC などの話

して、この大塚の問題

。提案されても、まだいいこと

あつて、知らなかった。

TOTAL P.07

2

猪谷 I.O.C 御指書

日時 63年8月17日 午前11時〜4時

場所 東京都大手町 A10ビル
猪谷事務所

同席 山口 龍一

大要

- 1 リーフレットの件
 - ・ 国野総務主任 猪谷 提子 にご了承
 - ・ 希望として メーカーとの原文を見たい
 - ・ Newsletter とする際も この体裁を
意いと思ひ
 - ・ 長野氏が各自にお出掛けのついでに
ては この前の書の中のご意見
IOC に対するものには注意されたい
- 2 ソウル文好策について
 - ・ この提議は 猪谷 提子 にご承

(質問) 元札に招待状を出すのか

答 金巻F誘う (IOC)
何人妻の如く合からずやが...

(質問) 東京招待状は 元札の 5053に
対応可いのか

A 期間中の妻日券は 合分田
妻名に 加算 (元札)
10/3 の以降は 西の如く
元札の妻の合からずやが
IOC 全員に誘う。 3053
と取かごうか

・ 土産の用意は 早 (元札)
(東京事務所迄に 誘う)

・ リーフレットの表には 10/3 とし 立候補 (元札)
を 示す (元札)

第6回長野冬季オリンピック招致連絡会議事録

日 時 平成元年6月7日(水) 13:00 ~ 14:40
場 所 日本体育協会501会議室

- 出席者
 JOC 岡野総務主事、猪谷IOC理事、山田委員、原委員、鬼駱委員
 長野県 毛瀬副知事、古越教育次長、渡辺初光が推進員
 長野市 小林初光が準備事務局長
 招致委員会 市村総長、吉田参予、山口広報渉外部長

岡野総務主事： 昨日協議了解が取れた事を報告する。それでは次第に従い報告事項の説明を願いたい。

- 山口部長： 別紙資料
 「IOC理事会招致活動報告」
 「IIF総会及び世界選手権大会招致活動報告」
 「FIBT総会活動報告」
 「FISカレンダークンファレンス招致活動報告」
 「アラブオリンピックフェスティバル招致活動報告」
 「OCA幹部会及びセミナー招致活動報告」
 「知事訪中報告」

岡野総務主事： いろいろ忙しい中、招致活動を続けて貰い心からお礼を申し上げます。ここまでで何か補足事項はありますか。
 吉田参予： 現在までIOC委員53名に接触出来た。まだ4,2名残っている。今後もお会い出来る機会を得たい。

猪谷理事： いろいろな会議に出掛けて頂き積極的に招致活動をしていただき好結果を得たようだ。これからも積極的にしていただきたい。
 また、アルペールビル、リレハンメル等オリンピック開催地に出掛ける場合は私に話してもらいたい。私から連絡を取り、効果を得られるようにしたい。
 IOC委員を訪問するときは、私に話していただきたい。連絡を取るようにする。

今日のジャパンタイムズでソルトレークの招致委員会委員長は暴言を吐いた。(日本は非常に物価が高い。)公然と他の都市を批判することはIOC委員に対してマイナスになる。私からもスマランチ会長に話すつもりである。相手を中傷するようなのは絶対にしてはならない。

岡野総務主事： 他に意見が無ければ次に進みたい。
 山口部長： 関係者来日状況について説明。
 ポスレスの役員からはリュージュのステラ-事務総長の作ったコースなら問題無いと言う話であった。
 ステラ-さんに現地を見ていただき、南向きのコースは問題であると言われた。もう一度見たいとの事なので来年の冬に再び長野に来てもらうよう話しをした。ステラ-さんは次の2回のオリンピックのコース造りをすることなので彼の意見をクリア-しなくてはならない。彼の意見を聞きながら進めて行きたい。

岡野総務主事： この人々にはJOCにも訪問してもらった。長野の対応は非常に良かったようだ。

猪谷理事： 会場が南向きということが代替地は問題ないか。
 市村総長： 北海道に委託して設計したもので当初は遮蔽などしたら問題はないと言うことであった。飯綱以外にはあるが、付近で良い場所があるか検討している。今後は気象状況を見たと上で代替地などを検討したい。

猪谷理事： イザテッチ会長は冬の競技では最もうるさいようだ。彼に文句を言われると大変に不利である。余り突っ張らないで代替地を探したら。

市村総長： ステラ-さんからこの事が会長に報告されたか分からないが、ステラ-さんは全面的に駄目ではないが、出来るならば代替地を探したらとのことであった。

猪谷理事： 現在IOCはIFの言うことを重要視するようになった。
 市村総長： これは、米が溢れた場合、米を割るのが大変なのと、遮蔽すると観客が見物するのが大変になると言うことである。

山田委員： 代替地の検討も必要だ。
 市村総長： これも検討している。2面作戦で行っている。
 岡野総務主事： それでは協議了解に進みたい。

市村総長 : JOCから昨年7月13日文部省に依頼して頂き、長野市長、長野市長、長野県知事からもお願いした。文部省とは二十数回折衝を行い、今年になって内政審議室の主催で関係省庁議長会議を4月13日、4月20日に開き、その後関係の深い関係5省庁と数回協議し、6月2日に副知事、助役が申請書を提出した。これを元に次官会議を開き、6月6日に閣議了解となった。内容は名古屋とほとんど同じだが、若千名古屋より柔らかくなっている。

鬼敷委員 : 第18回に破れたらもう一度閣議了解を取るのか。
市村総長 : 形だけは取ることになる。
岡野総務主事 : 報告事項は以上にして、協議事項の説明を願いたい。
山口部長 : 6月21日から23日に開かれるAENOCのセミナーには市村総長、吉田参与、事務局職員2名が参加する。JOCからも行っていただけのことなのを力で貸してもらいたい。

市村総長 : リージェの総会がその後6月30日から7月1日までである。アレゼンテーションをするよう正式の要請があった。吉田参与にアレゼンティーターをして頂き、事務局職員、日本連盟の田島副会長にも行っていただく予定である。
岡野総務主事 : IOC総会について別紙(案)を説明。
市村総長 : 年内に閣議する招致計画の案であるが、これに関して意見はあるか。

市村総長 : ツバイフェルIOC事務局長が来た際協議したことだが、JOCからサン・ファンに5~6名派遣することとした。内訳は梶さのの関係から3名、JOCから2~3名出す予定である。
岡野総務主事 : 知事・市長にも行っていただけないか。
市村総長 : 知事には正式にお願いしてないが、この会で知事に行っていたくよう要請していただければ知事にもお願いしたい。市長には行っていただくことになっている。

岡野総務主事 : 知事にも是非行っていただけたら、熱意が伝わる。
猪谷理事 : 知事にも是非行っていただけたら、市長さんの日程は決まっているか。
市村総長 : 細かい日程は決まっていない。
猪谷理事 : 総務主事にもお願いしたいが、アクリテーションカード(資格認定カード)はどうなっているか。JOCに窓口になっていただけたらいいか。

市村総長 : JOCから昨年7月13日文部省に依頼して頂き、長野市長、長野市長、長野県知事からもお願いした。文部省とは二十数回折衝を行い、今年になって内政審議室の主催で関係省庁議長会議を4月13日、4月20日に開き、その後関係の深い関係5省庁と数回協議し、6月2日に副知事、助役が申請書を提出した。これを元に次官会議を開き、6月6日に閣議了解となった。内容は名古屋とほとんど同じだが、若千名古屋より柔らかくなっている。

鬼敷委員 : 第18回に破れたらもう一度閣議了解を取るのか。
市村総長 : 形だけは取ることになる。
岡野総務主事 : 報告事項は以上にして、協議事項の説明を願いたい。
山口部長 : 6月21日から23日に開かれるAENOCのセミナーには市村総長、吉田参与、事務局職員2名が参加する。JOCからも行っていただけのことなのを力で貸してもらいたい。

リージェの総会がその後6月30日から7月1日までである。アレゼンテーションをするよう正式の要請があった。吉田参与にアレゼンティーターをして頂き、事務局職員、日本連盟の田島副会長にも行っていただく予定である。
IOC総会について別紙(案)を説明。
年内に閣議する招致計画の案であるが、これに関して意見はあるか。
ツバイフェルIOC事務局長が来た際協議したことだが、JOCからサン・ファンに5~6名派遣することとした。内訳は梶さのの関係から3名、JOCから2~3名出す予定である。
知事・市長にも行っていただけないか。
知事には正式にお願いしてないが、この会で知事に行っていたくよう要請していただければ知事にもお願いしたい。市長には行っていただくことになっている。
知事にも是非行っていただけたら、熱意が伝わる。
知事にも是非行っていただけたら、市長さんの日程は決まっているか。
細かい日程は決まっていない。
総務主事にもお願いしたいが、アクリテーションカード(資格認定カード)はどうなっているか。JOCに窓口になっていただけたらいいか。

岡野総務主事 : 時間が余りないので、名簿をもらい、JOCでやることにしたるか。
猪谷理事 : サン・ファンでIOCが確保している中でスイッチートが取れない。ツインを3室確保するよう、ツバイフェルと約束した
市村総長 : 県の競技連盟、町村からもいってもらったかどうか、議会からもという話もある。余り多くなってもいいものか、その辺のご判断をいただきたい。

猪谷理事 : 多い分には構わないのではないか。吉田さんはどうですか。
吉田参与 : 経験するということも大切である。
市村総長 : JOCから派遣する5~6名の中に長野をいれてもらえないか。
廣委員 : 猪谷さん、うまいし6名で話してあるが増加することは出来るか。

猪谷理事 : いいのではないか。
廣委員 : 登録すれば良いだろう。宿泊先もメイン会場のそばになるだろう。
岡野総務主事 : 東京総会の準備のアンケートを作って、何時から何時まで日本にいるか、長野へ行く希望はあるか探ってみてはどうか。IOCに会うチャンスにもなる。
廣委員 : ツバイフェルと協議した際、長野というものを何処に顔を出せるかさりげなく聞いてみた。夏季大会の候補都市の決定の際の希望放送に長野をいれてはと話したが駄目であった。顔を出せるのは色々な催し物の中ということか。
猪谷理事 : 吉田さんにお伺いしたいが、バルセロナ、アンカレッジ等では他の候補都市は招致活動をしていたか。
吉田参与 : バルセロナではハカ、アンカレッジではアンカレッジとパレ・ダオスタが来ていた。あとは余り顔を出していないようだ。
市村総長 : 岡野さんにお伺いしたいが、AENOCではよくセミナーを開いているのか。

岡野総務主事 : 距離が近いせいか、よくやっている。IOCにもよく意見をを出しているようだ。今回はヨットの穂積さんがいってくださることになると思う。
それでは、次に進みたい。IOC委員対策について。

市村総長 : JOCから昨年7月13日文部省に依頼して頂き、長野市長、長野市長、長野県知事からもお願いした。文部省とは二十数回折衝を行い、今年になって内政審議室の主催で関係省庁議長会議を4月13日、4月20日に開き、その後関係の深い関係5省庁と数回協議し、6月2日に副知事、助役が申請書を提出した。これを元に次官会議を開き、6月6日に閣議了解となった。内容は名古屋とほとんど同じだが、若千名古屋より柔らかくなっている。

鬼敷委員 : 第18回に破れたらもう一度閣議了解を取るのか。
市村総長 : 形だけは取ることになる。
岡野総務主事 : 報告事項は以上にして、協議事項の説明を願いたい。
山口部長 : 6月21日から23日に開かれるAENOCのセミナーには市村総長、吉田参与、事務局職員2名が参加する。JOCからも行っていただけのことなのを力で貸してもらいたい。

リージェの総会がその後6月30日から7月1日までである。アレゼンテーションをするよう正式の要請があった。吉田参与にアレゼンティーターをして頂き、事務局職員、日本連盟の田島副会長にも行っていただく予定である。
IOC総会について別紙(案)を説明。
年内に閣議する招致計画の案であるが、これに関して意見はあるか。
ツバイフェルIOC事務局長が来た際協議したことだが、JOCからサン・ファンに5~6名派遣することとした。内訳は梶さのの関係から3名、JOCから2~3名出す予定である。
知事・市長にも行っていただけないか。
知事には正式にお願いしてないが、この会で知事に行っていたくよう要請していただければ知事にもお願いしたい。市長には行っていただくことになっている。
知事にも是非行っていただけたら、熱意が伝わる。
知事にも是非行っていただけたら、市長さんの日程は決まっているか。
細かい日程は決まっていない。
総務主事にもお願いしたいが、アクリテーションカード(資格認定カード)はどうなっているか。JOCに窓口になっていただけたらいいか。

市村総長 : JOCから昨年7月13日文部省に依頼して頂き、長野市長、長野市長、長野県知事からもお願いした。文部省とは二十数回折衝を行い、今年になって内政審議室の主催で関係省庁議長会議を4月13日、4月20日に開き、その後関係の深い関係5省庁と数回協議し、6月2日に副知事、助役が申請書を提出した。これを元に次官会議を開き、6月6日に閣議了解となった。内容は名古屋とほとんど同じだが、若千名古屋より柔らかくなっている。

市村総長 : IOC委員対策については、こちらへの招待、こちらから出掛ける等いろいろな方法はあるが、正式に招待等をしたい。出来ればIOC委員に対する担当を設けてもらいたい。JOCの新しい体制の中で責任体制を設けてもらい、その下で長野の事務局がご指導をいただきたい。

猪谷理事 : 大変よいアイデアだ。アンカレッジではアンバサダーシステムを作っていた。市民のボランティアがそれぞれIOCに対応する形を取っていた。

阿野総務主事 : これは、招致委員会設置に絡めて考えたい。

市村総長 : 長野サイドだけの活動ではどうしようもないので、JOCサイドでもリーダー的に動いていただきたい。

毛産副知事 : アルペニルビルではNOC委員中心に5名で、それぞれ18名程度のIOC委員に接触して招致活動をしたようだ。JOCの人脈を生かしていただき、活動してもらいたい。実績は後500日程しかない。95名のIOC委員のどこに手をぬいてよという事はない。人脈を通じて行かなければ大変である。是非ご検討をいただきたい。

山田委員 : JOCでも、個人的にIOC委員とつながりの深い人がいる。そういう人を発掘して、折衝してもらわなくてはならない。我々でも発掘する。

毛産副知事 : 外務省の各局も金力を上げてバック・アップしてくれると言ってくれた。在外公館とJOCで協力してリードしていただきたい。

猪谷理事 : 今週末オスロに行くが前後に3、4か国のIOCを回るつもりだ。西ドイツのダウメ、フランスのボームンの後継の有力候補のダネネ等を回る。

毛産副知事 : 外交ルート、個人ルート一体になってやれば、だいぶ効果があるのではないか。

阿野総務主事 : 今日、そういう形でIOCとの接触を広い範囲で人脈を見つけて、コンタクトを取ることしたい。

猪谷理事 : IOCに対する接手法について、長野に英文のマニュアルを渡してあるが、十分に理解して欲しい。出掛けるのも大事だが、是非IOC委員を長野に招待してもら

いたい。以前から会議で何人位呼ぶのか質問しているが、答えがない。今年45名、来年45名位を呼ぶような形にして貰いたい。そのくらの原つもりでやらなければ大変だ。45名について議論が出ないので、私も声をかけられなくて困っている。

市村総長 : アジア等足元を固めるような地区を呼ぶような形か。

猪谷理事 : だれでも広く声をかけて、早く来てもらえない人は誰でも来てもらわなければならない。

毛産副知事 : これから具体的に話しをするが、外務省でも招待する予算があるようである。外務の金を使ったりして、幅広く呼びたい。

阿野総務主事 : 猪谷さんの方では45名としたらリストアップが出来るか、そうすると事務高もやりやすいのではないか。

猪谷理事 : これは、作ることにする。

また、IOC委員等が来た場合、私や吉田さんがどうしても出られない場合がある。フランス語と英語の出来る女性を用意して貰いたい。ただ出来るだけでなく、ある程度上流家庭の人にしてもらいたい。

また、招致委員会で出す手紙は余りかんばしくない。英語の文等を作る際もしっかりとした物にしてもらいたい。日本語直訳のような文章では駄目である。ソウルでは言葉が問題になった。長野も言葉が問題になるような印象を持たせないようにしてほしい。

阿野総務主事 : それでは、東京結会について進めたい。

廣委員 : 今回ツバイフェルとの話しでは長野を急頭において話した。別紙(案)のレディース・プログラムについては、日帰りでいける形にしてくれといわれた。

市村総長 : 三越本店で長野フェアを開く。ホテルとの間をシャトルバスを走らせ、買い物等をしていただくつもりである。

また、プレス関係の中にコーナーを設けて長野のPRをするのは問題ないか。

廣委員 : プレス報道については、まだ確定してないので、今後考えることにしたい。シャトルバスについては、前の晩に申し込みを受けるとに出来るか。また、三越のセキユリティーも考えなければならぬ。

猪谷理事 : 総長の質問についてはIOCルールからはOKである。また、

か、そろそろ検討してもらいたい、盛り上がるようにしていきたい。

- 山口部長 : 三越の広さはどの位になるか
- 猪谷理事 : 100坪位になる。
- 猪谷理事 : 三越では割引きがあるがPRしたらIOC委員を呼ぶ理由になる。
- 猪谷理事 : 総会前に長野に呼ぶよということは長野独自で行うということか、そのとおりである。サンファアンで情報収集したい。サンファアンで東京総会のプレゼンテーションを私が行う。そして、長野訪問の希望を取ることにする。
- 猪谷理事 : なお、JOCの東京総会資料と長野の資料は別に配った方がいい。
- 猪谷理事 : 日帰りに取るということは、期間中ということか。
- 猪谷理事 : 毎日レセプションがあるので日帰りでも無ければ無理である。
- 猪谷理事 : それでは閣議了解後の事務局体制に入りたい。
- 猪谷理事 : 招致委員会の組織については、スポーツ界、官界、財界等、大規模になるので、別途として、秋口までに作りたい。事務局体制については組織の見直しを行い、東京事務所を作りたい。東京に派遣する人間は各程度を考えている。しかし、これはあくまでたたき台であり、体協等の指導を得て早急に詰めた。
- 猪谷理事 : 事務として効率的に動くということが一番である。そして、長野と東京の時差をなくすることも重要である。
- 猪谷理事 : JOCと体協の組織替えもあるので、そこを含んで考えていただきたい。
- 猪谷理事 : それと合わせる形で考えている。
- 猪谷理事 : 現在の招致委員会があるが、了解を取ったので人招取ことになるのか。
- 猪谷理事 : 招致委員会が出るまでは任意団体である。
- 猪谷理事 : 寄付は非課税扱いになるのか。
- 猪谷理事 : 現在は県を通して行う形になっている。招致委員会が出来たらスポーツ資金財団を通す形になる。
- 猪谷理事 : 英文の名前は変えなくてはならない。
- 猪谷理事 : また、9月19～20日にサマランチ会長が長野に来るが、県議会、市議会で挨拶してもらったらどうか。また、会長がヘリから降りたら、沿道に市民に出ていただきパレードを行ったらどうか。

- 山口部長 : 委員会の人選は大変になるでしょうね。
- 猪谷理事 : これは、大変なことである。どの方にお願いでいいか。
- 猪谷理事 : 小坂先生に今後ともお願いしたらどうか。
- 猪谷理事 : 委員会の会長はネームバリューのある人になるだろう。政界、財界、スポーツ界があるが地元でも充分に考えてもらいたい。これも、早く詰めていきたいと思う。
- 猪谷理事 : 1年もすると、IOCから質問書が来る。充分に考えていただきたい。IOC委員の出席等についても充分に考えていただきたい。
- 猪谷理事 : 外務省等にも話してある。
- 猪谷理事 : 別紙資料「オリンピックセンターの設置」について説明。
- 猪谷理事 : オリンピックセンターの談話室でサマランチ会長に記者会見等をしてもらったかどうか。
- 猪谷理事 : 別紙資料「長野冬季オリンピック招致委員会総会」
- 猪谷理事 : 「広告塔の設置」
- 猪谷理事 : 「長野冬季オリンピック推進の集い」
- 猪谷理事 : 「招致推進委員の集い」
- 猪谷理事 : の説明。
- 猪谷理事 : レター・フヤカム長野のNo. 3にはこの広告塔を入れてもらいたい。
- 猪谷理事 : 他に何かあるか。
- 猪谷理事 : オリンピックデー記念式典が6月23日にある。東京オリンピック25周年で体協でパーティーがある。
- 猪谷理事 : 参加は自由か。
- 猪谷理事 : 自由である。
- 猪谷理事 : 長野からも多く出席していただきたい。
- 猪谷理事 : JOCのオリンピックデー・ランは来年から長野で行ったらか。
- 猪谷理事 : 出来れば、長野の陸上連盟と相談しておこなっても良い印象づけになる。
- 猪谷理事 : 日本陸連と札幌の了解をうまく取らなくてはならない。

6月7日付 ジャパンタイムス

<要約>

長野は1998年オリンピックの「最有力候補」

ソルトレークシティー、ウタ（UPIー共同）日本は1998年オリンピック冬季競技大会の最有力候補だ。しかし、ウタ州も競争に加わっているとソルトレークシティー冬季競技大会組織委員会の会長は月曜日に発言した。

「例えば、我々は日本の長野より、15か月遅れている。そして、長野は強敵であると考えている。しかし、我々は有利な売り込み方を持っている。」と委員会の委員長トム・ウェルチはUSOC（アメリカオリンピック委員会）がソルトレークシティーを1998年の候補都市に決定した後述した。

ソルトレークシティーはIOCに立候補するため、2年間準備をしていた。しかし、日本（昨年候補都市を決めた。）を含む多くの都市が現れた。

1992年にはフランスのアルペールビルで、1994年にはノルウェーのリレハンメルで開催されるので、1998年は「ヨーロッパから外れる時」なので、スペインやイタリアは本気で挑んでこないだろうと考えているとウェルチは述べた。

しかしながら、ニューヨーク州のレークブラスレットで1980年に大会を開いたが日本で前回開いたのは1972年であるので、長野の方が先に行うのに有利であると述べた。

「しかし、日本は問題を持っている。日本は今日訪れるのに世界中で最も金のかかる国である。そして、大多数の国の選手はオリンピックに参加する余裕はないという状態である。」とウェルチは述べた。

USOCはアンカレッジ、デンバー、リノ・レークタポの中からソルトレークシティーを選んだ際、もし、IOCが1998年大会に他の都市を選んだ場合、ソルトレークシティーは2002年の立候補もすることになると述べた。

岡野総務主事： 次回の日程について、今月中に行うか、または、少し待つか。

病委員： JOCの体制を待たらどうか。

市村総長： 省庁の課長を入れたいか、あるいは出れるのではないか。

岡野総務主事： いいか悪いかは別にして、お願いは出来るのではないか。
7月上旬を目途に次回を行っただらどうか。（7/6～7/10の間）



第6回ANOC総会・ANOC理事会
及びIOC理事会・NOCs合同会議
招致活動報告

- 1 期 間 1988年12月3日～12日
- 2 場 所 オーストラリア ウィーン
ウィーンヒルトンホテル、オーストリーセンターほか
- 3 出席者 IOC 猪谷理事夫妻
JOC 岡野総務主任、宮川、佐野理事
長野冬季オリンピック招致委員会
吉田夫妻、牧野内渉外課長、依田主査
- 4 招致活動体制
①招致活動については、「長野が来ている」という印象を与えること、
又「1998年の冬季五輪をやりたい」ことを個別にPRする。
②猪谷夫妻、吉田夫妻がセットでロビー活動を行う。又岡野、宮川、佐野の各氏は、会議の間をぬって個別にPRする。
③招致委員会事務局は、各氏のサポートをすると共に、「長野」の存在をPRするためのロビー活動と情報収集。

5 ANOC総会・IOC理事会の概要

- ①日程 (別紙)
- ②出席者 IOC委員(別紙)
- ANOC 各国関係者約450人

6 配布資料等

- ①黒瀬光オルゴール付きパンフレット 各NOCへ13
 - ②ガイドブックナガノ 1
 - ③レターfromナガノ 1
 - ④絵はがき 3
 - ⑤五輪入り招致パッチ大・小 2
 - ⑥帽子 小
 - ⑦扇子 大
- ANOC理事・IOC理事

7 活動内容

- 12月5日
 - ・ANOC総会用パンフレットの委詰め
 - ・ロビー活動
 - ・猪谷、岡野、吉田氏と打合せ
- 12月6日
 - ・ANOC総会用市長あいさつ文作成
 - ・ロビー活動
 - ・ANOC総会オープニングセレモニー出席 (Concert Hall)
 - ・ウィーン市長主催夕食会 (City Hall)
 - ・岡野、吉田氏と打合せ
- 12月7日
 - ・ANOC総会資料配布 (昼食休憩時) (オーストリア)
 - ・ロビー活動
 - ・アデダス主催夕食会 (オーストリア)
- 12月8日
 - ・ANOC総会会場 (オーストリア) で資料配布
 - ・ANOC主催夕食会 ()
 - ・吉田氏と打合せ
 - ・ANOC理事以上18人に扇子(大)を部屋に配布
- 12月9日
 - ・ロビー活動
 - ・IOC会長主催昼食会 (オーストリア)
 - ・ANOC主催お別れパーティー (オーストリア)
 - ・吉田氏と打合せ

9 招致活動からの情報

《埼玉IOC理事》

- ① アルベールビルに長野が行き過ぎる。一度に大勢で物見見物気分で行くので組織委員会が迷惑している。NWOCの承認とか、企画旅行会社に申し入れずとか、なんらかの対策が必要である。せいぜい5人程度だ。(岡野氏も同意見)
- ② 1/23・24のIOC理事会には市長夫妻にあってほしい。やアルベールビル組織委員会では、市長の日程を早急に調査して連絡してほしい。ホテル等を手配する。
1/29～2/1の世界アルベル選手権(アメリカ・ペイル)の対応も必要である。できれば市長がいてほしい。
- ③ 8/9・9・18～21にサマランチ会長の来日が決定した。
9・19に長野にきてもらう。予定は大坂～長野に入り上山田に1泊し、東京に行くことだろうか。
- ④ オリリンピックボウルを8/9/秋にやりたい。(岡野氏?)
そのとき、ヨーロッパの冬季関係のIOC委員等を招待する積もりである。
- ⑤ 連絡会を年内に開いて欲しい。(岡野氏一無理かな?)
- ⑥ 招致活動には、英会話が不可欠である。
英、仏語がわかる人を招致委員会に是非配置する必要がある。(吉田氏も同意見)

《岡野総務主宰》

- ① 1/2/20に閣議了解のため大蔵省の局長、課長、主計官等と話し合う。
- ② オリリンピックボウルについては優オーナーによく話して欲しい。
- ③ アジア・アフリカはまかせて欲しい。アジアはタイのダウィー、マレーシアのハムザ、アフリカはガンガがいい。(濤があるが)
- ④ オーストリアは2002年にやりたいので、98は日本でやるよう何でも協力するといっている。
⑤ 小物としてアレゼントするならネクタイがいい。

8 招致活動の総括

- ① 今回のANOC総会では他の冬季大会立候補都市が招致活動に来ていなかった。長野の招致活動が効果的であった。
- ② 96年夏の候補都市で招致活動を行っていた都市は、アトランタ(市長外9人)、メルボルン(市長、令嬢外5人)ギフトは、89オーストラリアオーブンの招待とラケット、アテネ(市長外5人)ギフトはアンブレラ、トロント(会長外9人)、マンチエスターであり、活発にロビー活動を行っていた。マンチエスター来てはいたが、何人来ていたか確認出来なかった。冬季では、アンカレッジの会長が1日だけ来ていたが、すでに顔見知りとみえて、かなりフランクに話をしていたのが印象的であった。(サマランチ会長とも)
- ③ 長野も早急に市長が、IOC委員や各NOCのメンバーと顔見知りになるようあらゆる機会をとらえて、積極的に出て行かなければならない。
- ④ オリリンピックファミリーの一員としてホスピタリティを持って来た総務が特に必要であり、個々のつながりが、友人関係の形成が急務である。また諸外国の人々もつながりを持ちたいと素まっしている。
- ⑤ 配布資料については、一般関係者には多種類の資料は必要では無く、リーフレットとバッジ程度で十分である。VIPにたいして日本らしい心の暖まるギフトを用意する。
- ⑥ 又、長野の山々は以外と人気がなく、東洋的なものが好まれる、オルゴール付きパンフレットはこの程が好評であった。
- ⑦ パーミミガム対策を今から露っておく必要がある。トロントはすでに東京を下見している。そのためにIOC委員の色分けをして、長野に協力していただけたら委員にたいして資金を有効に使うことが必要、万運なく金まかしても徒労に帰す。
- ⑧ 市長が先頭に立ち、エニフォームをそろえて海外活動をしたほうが多立つ上に長野のがまきでいることを印象づけられる。ただしあまり多くなく5～6人程度で活動をする。

《その他》

- ① スウニーターテンOC委員三草一岡野氏紹介
エスデルスドも”98に立候補する。4月にアイスホッケー世界選手権を開催するので、見に来い。
- ② ボツアナOC委員
アシックスはアフリカに非協力だ。協力してくれるよう力をかけてほしい。
- ③ ダガチ氏(ユージ)国際陸運副会長
サマランチのパersonalアドバイザーであり、息子が「スタジオ6」という広告会社を経営している。長野の広報に色気がある。

10 その他

- ① 菅谷氏はIOC委員を相当数知っている。氏からIOC委員に関する情報を課部にわたって得るべきである。氏は長野に担当入れ込んでおき、こちらの要望は聞いてくれるようだ。はつきりところとしてほしい。といった方がよい。